



かわにし

川西高等特別支援学校
学校だより 第26号
令和4年10月7日

生徒たちの将来へ向けて～オープンスクール～

教頭 遠藤 知子

7月5日、9月8日両日オープンスクールが開催されました。市内の小中学校、特別支援学校、教育機関等から多数の参加者がありました。

学校概要、進路指導等の説明の後、1回目は芸術活動（音楽、美術）、国数の授業を、2回目は当校の特色でもある職業技能の学習の様子を見学していただきました。当校の様子や学習内容について理解していただけたと思います。



特に2回目は当校の生徒が自分たちの担当している職業技能班の仕事内容について説明をしたり、体験に参加した中学生に丁寧に教えたりする姿があちこちで見られました。中学生に説明し、取り組む姿を確認し「うん。いいよその調子。」と声を掛ける生徒、見学者に戸惑うことなく作業に集中して取り組んでいる生徒など、日々成長している姿が見られました。

参加いただいた生徒、保護者、関係機関の皆様の感想を紹介いたします。

- ・先輩方が詳しく説明してくれて、とてもわかりやすかったです。また、やっている姿がとてもかっこよかったです。
- ・説明はとてもよく分かった。進路について、卒業後のことがわかりました。体験が面白かったです。
- ・国数では個に応じて指導されている様子がよく分かりました。ねらいが書かれてあったので、授業の意図するところが分かり、参観しやすかったです。ありがとうございました。学校進路の説明もよく分かりました。
- ・卒業生も生き生きと学んでいる様子がうかがえました。学校の様子が分かりとても有意義な半日間でした。
- ・生徒さんの説明が上手&わかりやすくありがたかったです。きりっと+きちんと+真剣に作業をなさっていてかっこよかったです。わかりやすい体験の場をありがとうございました。
- ・社会のルールを身につける場、仕事ができる力を育む事がこの先の人生にとっても大事な3年間。自分の力でできること、他者から愛され、かわいがられ必要な人間になること、学校の生徒さんだけでなく、自分自身にも大切なことと思いました。一緒に社会を生きていくためにお手伝いできたらとも思いました。



安全・安心な学校を目指して

生徒指導主事 井口 哲朗

新型コロナウイルス下での生活も2年半が経過しようとしています。その間、コロナウイルスも様々に変異し、感染者は減少傾向にあるものの、収束には至っておりません。また、今もなお十日町市内や津南地区、近隣地域にも感染の様子が見られ、いつ誰にでも感染する状況にあります。そのような中において、当校生徒指導部といたしましては、学校生活において、生徒たちの安全・安心を第一に考え、また心の不安定な状況を見逃さぬよう心のケアを行ってまいりたいと思っています。

① 生徒の反応を受け止める

生徒たちのストレスは様々なかたちで表れます。体調を崩したり、十分に眠れなくなったり、感情が安定しなくなることがあるかもしれません。また、コロナ禍において、不安になったり突然混乱したり、腹が立ったりするなどいつもとちがう自分の状態になることは当たり前の反応です。

当校では、そうした反応を温かく受け止め、生徒の心配ごとに耳を傾け、じっくりと話を聴く態勢をとっていきたいと思います。先にお知らせしたように、スクールカウンセラーも年間16回来校いたします。面談をご希望の際はお知らせください。

② 「いじめを見逃さないこと」を目標に

当校では1学期に『いじめ見逃しゼロ集会』を開きました。そこでは、各自で考えたいじめを見逃さないための標語を持ち寄り、グループ内で発表をしました。友人の意見を聞き、自分自身、今年1年いじめを見逃さないためにどのような行動や人との関わり方ができるかを考えました。最後には、安全・安心な学校作りのためには皆の協力が必要で、周囲の人に思いやりを持って学校生活を送りましょうと確認いたしました。

また、今年度に入り、SNSの不適切な使い方について指導をする場面がありました。スマートフォン、SNSの使い方については、学校でもスマホ・ケータイ安全教室等を開催し指導しているところでございます。ご家庭でも、今一度、使用法やご家庭での約束事についてご確認いただきますようよろしくお願いいたします。

最後に、生徒たちの健やかな成長に向けて、ご家庭、学校、社会が連携をしながら、あらゆる物事に取り組んでまいりたいと思っております。心配なことがございましたら、いつでも学校にご連絡ください。



～『第1回いじめ見逃しゼロ集会』の様子～ （ R4.5.27 に実施 ）

各班に分かれ、いじめを見逃さないための標語や、今年度の取り組み目標を発表しあいました。

体験！協力！学びいっぱいの長岡宿泊学習

2学年主任 井口 哲朗

去る7月14・15日の2日間、2年生は1泊2日の日程で長岡へ宿泊学習に行って参りました。学習のねらいは、『長岡市内の商用施設、宿泊施設等の利用の仕方を体験を通して身に付ける』『施設利用や買い物体験を通して、余暇の過ごし方の幅を広げる』『調べ学習や係活動を仲間と行うことで、協力して活動したり、その中で自分の役割を果たしたりする』でした。

行程は、1日目は余暇体験活動として、リバーサイド千秋、映画館Tジョイ長岡、ボウリング場POPボウルでの活動、2日目は企業・福祉施設見学として、アオーレ長岡、越後交通Eプラザビル、カフェく・る～む等を訪問しました。宿泊は、長岡グランドホテルでいたしました。

生徒たちは、映画やボウリング等の余暇活動を楽しんだり、見学学習では清掃の技術を学んだり、各所において積極的に質問をしたりと、まさにねらい通りの活動をしてくれました。宿泊もほとんどの生徒が人生初のシングルルームを利用し、部屋の使い方や時間の守り方等を学ぶことができました。またアオーレ長岡やながおか花火館において、全国的に有名な長岡花火に関することをみんなで体験できたことも良い思い出となりました。

今回は新型コロナウイルス感染症対策として、公共交通機関利用の学習は断念し貸切バス利用にする等、活動が制限される場面もありましたが、事前学習から当日まで、仲間と協力しての調べ学習や様々な体験活動と、たくさんの学びがありました。この経験を今後に活かして行って欲しいと思います。ありがとうございました。



職業技能検定（清掃部門）とアビリンピックにいがた

職業技能検定担当 笠井 敬祐



7月13日、14日の2日間に渡り、職業技能の授業の時間の中で新潟県特別支援学校職業技能検定（清掃部門）を実施し、清掃・介護班の9名の生徒が受検しました。

職業技能検定は清掃部門の実施を皮切りに、全県で介護や接客、ビルクリーニングなどの様々な検定が実施されており、高等部の多くの生徒が参加しています。清掃部門では自在ぼうき、ダスタークロス、モップ、掃除機の4つの用具を使った清掃を実施し、それぞれの用具につき10級から1級で評価をして認定しています。なお、認定に当たっては、審査基準研修会に参加して

審査員認定証を授与された職員が担当しています。

今年度は地域の学校が集まっての開催ではなく、各学校で審査を行う形となり、いつもの学校の環境で、普段使っている用具を使い、生徒たちは普段通りの実力を発揮することができました。

結果として全員が2級～4級の認定を受けました。この結果を力に、これからも清掃の技能を生かした学習を通して、職業生活に対する意識を高めていってほしいと思います。

なお、職業技能検定については今後実施される接客部門に、当校カフェ・バックヤード班の生徒が参加を予定しています。



9月10日には、新潟市においてアビリンピックにいがた2022（新潟県障害者技能競技大会）が開催されました。この大会は、障害のある方々の職業能力の向上を図るとともに、企業や社会一般の人々に障害のある方々に対する理解と認識を深めてもらい、その雇用の促進を図ることを目的として開催されている大会です。

今年度のアビリンピックには清掃・介護班から2名の生徒がビルクリーニング部門に参加し、ダスタークロスとモップを使った弾性床清掃と、掃除機を使ったカーペット清掃の2種目で競い合いました。出場者は過去の同大会での入賞者3名を含む11名がエントリーし、審査員の先生が「例年以上にハイレベルな大会」と評するぐらいの大会となりました。

当校からの出場者は残念ながら入賞することは叶いませんでしたが、ご家族や関係者など多くの人が見守る中で普段からの力を出し切り、作業を実施することができました。この経験を生かして、社会人としての生活への学びをさらに深めていってほしいと思います。



なお、11月に行われる全国大会での新潟県代表（ビルクリーニング部門）として当校の卒業生が選ばれました。素晴らしい力を持った先輩に続くことができるよう、職業技能の学習を通して力をつけていくことにしています。